

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372201489		
法人名	医療法人 福友会		
事業所名	グループホーム 寿荘		
所在地	一宮市大江3丁目10番地2		
自己評価作成日	平成27年12月23日	評価結果市町村受理日	平成28年4月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.espa-iyohokohyoshienjigyo.org/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人なごみ(和)の会		
所在地	名古屋市千種区小松町五丁目2番5		
訪問調査日	平成28年1月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は、一宮市役所の近くにあり、一宮駅、真清田神社にも近い環境にある住宅街のなかにある住宅改修型のグループホームです。1ユニット9名の施設です。住宅改修型の利点である、畳やふすまなど昔の住宅の雰囲気を残し、それをいかして家庭的な雰囲気を大切にしてサービス提供に努めております。居室は、南向きで広い部屋が多く、ゆったりとご利用いただけます。また、お庭や、広いベランダもあり、園芸や、家庭菜園なども楽しめます。しかし住宅改修型の欠点として段差やスロープなどもあります。施設としては、利用者さんの能力の維持向上の機会と捉えております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ゆったり」「自由に」「楽しく」の理念を共有しながら家庭的な雰囲気の中ゆったりと過ごし、自立度の高い人は自由に買い物へ行き(職員の見守り対応)個々のパターンを考えながら自主的に行動できるようアプローチをしながら支援に取り組み、どのような支援を行えば入居者が快適な暮らしを送れるのか常に話し合いを行うなど入居者への思いがうかがえる。
敬老の日、クリスマス、誕生日の年3回、日頃の会話から読み取り入居者の好みの物を贈り家庭的な雰囲気を醸しだしている。
市の協力を仰ぎ音信不通になった家族を捜索し、アプローチを続け再会できた事例がある。
入居者と寄り添い快適で、安全な暮らしを実現できている施設といえる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆったり」「自由に」「楽しく」を理念として、利用者個人のペースで、慌てずに、楽しんで日常生活が営めるように支援している。	「ゆったり・自由に・楽しく」の理念を掲げ、その実現のために利用者の興味のあることなど、自ら行動できるよう職員間で話し合い、自宅で生活していた時と変わらず、入居者が自己決定ができる暮らしのための支援を行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の理容院、商店など歩いて出向くように努め、売買のみにならないよう、会話などを出来るように、協力を依頼している。	町内会に加入し、敬老会の発表会の見学に出向いている。町内会、包括と連携をとりながら近隣の独居の高齢者に声掛けをし、見守りを行っている。近隣住民からは手作りの差し入れがあり、散歩時に馴染みの理髪店へ立ち寄り会話を楽しむなど交流を深めている。又、専門学生の研修の受け入れ、年2回の演芸ボランティアの訪問がある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の認知症の事例を運営推進会議などで包括の職員などと話していたりする。また、市の後年福祉課と相談などしている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営会議の中から頂いた情報を活かし、近隣の行事などに参加できるようにしている。	年6回奇数月に開催している。会議ではホームの現況報告の他、地域の情報を入手している。議題について話し合い、又、災害時における地域、近隣住民へ協力の呼びかけや、近隣住民の認知症の事例検討を行い、必要であれば連携を図るため、包括、町内会等の参加メンバーで情報共有を行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	困難な事例など高年福祉課や、包括支援センターの職員などと相談し、協力を仰いだりしている。	市役所は近隣に位置する為、頻繁に行き来している。高年福祉課とは現状報告、業務相談のほか、連携して入居者家族に契約に関する説明の協力の依頼している。包括主催の介護交流会の参加、施設サービス連絡会の施設部会の虐待、接遇等の研修会に参加している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束を	内部研修などを行い身体拘束がなぜいけないかを理解し、そのうえで利用者の安全を第一に考え、身体拘束をしないサービスの提供に努めている。	年1回拘束について、毎年教材を替え内部研修を行っている。玄関の施錠は行っていないがセンサーの設置がある為、玄関の出入りは確認できる。又、事業所内部の構造上死角部分が多い為、廊下、階段に場所によって音が違うチャイムを設置し、入居者の動向を把握するような仕組みがある。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の解釈など研修を行い、特に言葉遣いなどに気を配りながら、リスクの高い職員など管理者が目を光らせるようにしている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の家族背景など入所前などに職員と話し、時には、成年後見制度の利用があることなどそのときに説明したりしている。場合によっては、市等とも相談している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約者には、できる限り時間をかけて丁寧に説明するようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員には、利用者との会話(入浴中など)の中からニーズを拾い上げるようにし、管理者に報告したりしている。また、家族には、近況報告時などに意見を聞いたりできるようにしている。意見箱も設置している。	意見箱の設置がある。家族の意見は訪問時に聞き取り、遠方の家族には電話で現状報告の際聞き取りをしている。入居者は日常の会話から拾い上げ、検討しながら反映に繋げるよう努めている。また、長い間疎遠になっていた家族とも関係機関と連携を取り、やり取りが可能になった事例もある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りや、会議のばなどで意見が出ている。その都度可能な限り説明し、即答できないときには、法人本部に確認しながら、対応している。	月1回職員の研修及び全体会議を行っている。気付いた事は毎日の申し送りにて情報共有し、その中でさらに検討が必要な事例については、ケースカンファレンスを開催している。例えば、食事の際に使用する箸の長さ、皿の大きさ等を変更することによって、入居者の負担を軽くし、さらに自分で摂取できるよう検討する等、職員の意見を反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務希望や、必要な物品などの希望をとりいれるようにして、環境整備に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の能力を鑑み、外部研修など参加できるようにしている。ときには、課題を与えるなどしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	一宮市サービス事業者連絡会や包括支援センターの研修などに参加し、同業者との交流をはかっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面接や、ケアマネのどこから利用者や介護者の要望などを聞いたり、入所後は、特に、意図して声かけするなどして、不安のないように配慮している。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	最初の印象が後に大きく影響すると考えているので、入所前の面接など極力多くの時間をさき、家族の意向・要望などに細部にまで気を使い、耳を傾けるようにしている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の状況をまず把握し、当施設でできるサービス・できないサービスを説明し、時には、入院、他の事業所への入所なども相談している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の能力を見極め、できることはお願いして調理・洗濯たたみ・食器洗いなどしていただいている。その折にもお礼の言葉を忘れないようにしている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会など御家族にお願いしている。また、手紙・電話など自由に出来るように配慮し、可能な限り外出など依頼している。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話など自由に使えるようにして、なじみの人などとの交流できるように配慮している。	電話、手紙等、これまでの関係が途切れないよう支援に努めている。入居後に理髪店、近隣の商店、喫茶店、スーパーなど新たな馴染みの人や場所と交流を深めるよう配慮し、支援を行なっている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の会話能力など見極め、食堂での座席に配慮して、会話などが増えるようにしている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院などで、施設継続が困難になった事例も、医療機関からの情報などを家族に連絡したりしている。また、特養に入所された事例なども時折面会に行ったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の行動、声掛けによる拒否の状況などから本人の意向を読み取りサービス提供に努めている	日常の会話から入居者の意向を把握し、職員間で共有している。故郷に戻りたい入居者には家族と連絡をとり意向に沿えるよう支援を行ない、一人で買い物へ行きたい入居者には見守りに対応し、菜園好きの入居者には苗を購入し、自主的に行動してもらえるようアプローチを行いながら支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に利用者の暮らしぶりなど入所前の施設職員やケアマネ等から聞き取り、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所前の状況を参考にして、入所後の本人の生活状況などから現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	課題となる本人の行動など家族や、市の職員、運営会議の参加者などと相談しより良いサービス提供できるように努めている	3か月から半年に一回計画の見直しを行っている。オリジナルで作成した介護記録にケアプランの項目を入れ、職員が日々、目標に合った支援を行う事が出来る工夫を行っている。その際モニタリングも同時に行い、変化があればその都度変更し入居者の現状に沿った計画になるよう見直されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	排泄、体温、血圧の記録をはじめ不穏行動や、ケアプラン内のサービス提供状況などを個別に記録し、更に、きずきノートなども利用し、情報の共有に努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	適宜プランの見直しを行いながら、困難事例等は、市の職員や、運営会議の参加者等に相談したりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族等より確認し、また、施設内での行動や能力からできることできそうなことを提供し、安全で豊かな暮らしができるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診などは、家族や本人の意向を確認して協力医院をはじめとする医療機関に受診している。	昨年かかりつけ医が閉院した為、現在は同法人医療機関を主体とし近隣の内科医を受診している。月2回法人医療機関の看護師の訪問があり24時間の連絡が可能であり、必要に応じて同法人の医療機関と連携がとれる体制となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気づきや変化を逐次管理者等に報告し、ときには、看護師へ報告相談し、その結果によっては受診に繋げるなどしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院に入院したときなどその相談室などの職員を窓口情報交換し、可能な限り病院を訪問することにより、より良い関係づくり努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の指針を定め、入所時にまず施設でできることできないことを説明同意を得たうえで、将来当施設で困難となる場合についても、選択肢をあげ理解いただいている。更に、利用困難になりそうな状況では、市などを交えて相談説明している。	看取りは行っていない。医療依存度が高くなった場合、事業所では対応できない旨を契約時に説明をし同意を得ている。事業所の利用困難になった場合は市、家族と話し合いながら、受け入れ先を探す支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時等の緊急連絡先や応急処置などを掲示し、また、研修するようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に訓練するなどして、避難できるように努めている。	年2回の避難訓練は昼間、夜間想定で行い1階の入居者は玄関まで2、3階の入居者はベランダまで避難を行い、業者が年2回の設備点検を行っている。備蓄は業者から定期的に送られてくる食糧と水が3日分あり、簡易タンカ、簡易トイレの備えがある。	災害時における地域・近隣住民の支援の協力体制の構築を期待したい。

自己 番号	外部 番号	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	管理者は、利用者さんに「お願いする」「お礼を言う」ことを職員に指導し、職員は実行するようにしている。	入居者はクライアントであるという事を念頭に置き、事業所内で言葉使い、尊厳についての研修を年間の研修に計画している。また、どんな時に不適切な言葉遣いになってしまうか、原因は何かを、職員の全体会議等で事例検討を行い意識を高めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に選択権を与えるように選択肢をあげて本人の意思を尊重するようにしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間などは、施設で決めているが、他の時間は、自由に過ごしていただけるように支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の選択など可能な限り自己にて行うようにしている。また、利用者により毛染めできるように支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	箸配り・台拭き、食後の食器洗いなど協力して利用者が出来るように支援し、実際に行っている。	献立は職員間で話し合っている。敬老の日、おせち等の行事食があり、誕生日等の祝いのケーキは手作りで入居者と共に調理している。又、新メニューは食後に入居者の感想を聞き、参考にしながら様々なメニューを取り入れ、食事を楽しむ工夫をしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	病気の状況や、排尿の量などから水分必要量を予測して、お茶やスポーツリンクなどで水補給できるように配慮している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の状況にあわせて、洗口液などを用意して個々に合わせた口腔ケアを行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿記録などから個々の排泄パターンを確認して、トイレ誘導するなどしてオムツを減らしたりできるようにしている。	排泄チェック表を基に個々のパターンに合わせ誘導を行い、排便はその日の状況に合わせ服薬で対応している。入院中おむつ使用の入居者に退院後定期的に誘導を行い元に戻った事例がある。夜間時は覚醒誘導は行わずパット確認、交換で対応し、ナースコール、センサー付きマットで対応しながら自立に向けて支援を行なっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	不穏の原因になりやすいので、水分量や運動などを勧めている。また、個々の排便記録をつけ、状況に合わせて便秘薬を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴時間を作り、その日の体調に合わせて入浴できるようにしている	週3回、午前中に行っている。拒否のある入居者には時間を空け、声掛けに工夫をしながら対応している。脱衣所はヒーターを設置して温度差に配慮し、浴槽の湯は足し湯で対応し、足拭きマットは個人の物を使用して感染予防対策を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調にあわせて、昼寝などできるように声掛けなどしている。また、パジャマなどに着替えを促し、光量などを調節し寝やすい環境を整えるように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎日、血圧・体温の測定をし、薬剤の服薬量・禁忌など服薬一覧表などを使い確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	園芸、箸配り、食後の後片付け、洗濯たたみなど利用者に役割を持っていただけるようにしている。また、パズルなど能力に合わせてできるように配慮している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族に協力を仰ぎ、外出・外食などできるようにしている。	初詣は真清田神社へ行き、大江川の花見、七夕祭り、法人の敬老会に出掛けている。日常の外出は買い物、散歩、喫茶店、理髪店等、希望があれば個別での外出の支援を行なっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の状況に合わせて金銭を持ってもらい、嗜好品の買い物に出かけるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を家族等にかかけたり、年賀状を書いたりしていただいている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	庭に咲く花を飾ったりしている。壁に季節の飾りをしたりしている。また、空気清浄機やエアコンを利用し心地よくすごしていただけるように配慮している。温度も毎日チェックしている。	玄関には消毒液、マスクの設置がある。廊下、リビングには加湿器、空気清浄器の設置があり、温度、湿度の管理を行っている。インフルエンザ等の感染予防対策に次亜塩素酸噴霧器の設置がある。階段には昇降機の設置がありいつでも利用できる。トイレは二重カーテンで対応しプライバシーに配慮している。又、中庭は園芸用のプランターがあり季節の野菜を栽培している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂の席を気の合うもの同士隣合せになるように、また、あわない利用者どうしは離すなど配慮している。また、個々にパスルをしたり、新聞を見たりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	極力持込をお願いしているが、衣類や髭剃り程度の方が多い。テレビや仏像？などの持込あり。	エアコン、防火カーテン、加湿器、扇風機、チェストの設置があり、扇風機は空気循環の為壁に設置している。入居者の馴染みの物の持ち込みは可能である。シーツ交換は週1回行い、寝具交換は年1回行っている。汚染時はその都度交換で対応している。又、入居者が居室の清掃、布団干しを自主的に行い、職員は見守りで対応している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状況にあわせて、車椅子、シルバーカーつたい歩きなどできるように配慮している。		

(別紙4(2))

事業所名 グループホーム寿荘

目標達成計画

作成日: 平成28年 3月29日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35 (13)	災害時における地域・近隣住民の支援の協力体制の構築。	地域・近隣住民等と更なる連携をはかり、災害時等の協力体制を構築する。、	近隣住民は、高齢者世帯が多く、思うように支援構築が進まないが、近隣に新たな介護保険施設が開設され、これを期に、協力体制を構築してゆきたいと考え、評価後、運営会議にて意見をもとめた後に、当該事業所を実際に訪れ、相談開始している。	6ヶ月
2	30 (11)	協力医院の急な閉院にともない、なじみの医師、看護師でなくなり、利用者の意思等が十分に伝わらないことがある。	新たに、高齢者、認知症について造詣の深い、理解のある医療機関を探す。	一宮市後年福祉課や近隣病院の地域連携室などの意見を参考にして、元協力医院に変わる医療機関を決め、新たな信頼関係を構築してゆく	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。